



ポスター展の準備をする慶応義塾大学の学生ら  
(1日、田辺市上屋敷2丁目で)

## 田辺の働く人ポスター展

### 慶応大生が取材、作成

人が集う場所をテーマに調査研究をしている慶応義塾大学環境情報学部の学生と大学院生計17人が8月30日から2泊3日の日程で田辺市を訪れ、フィールドワークを行った。学生らは市内で働く9人を手分けして取材し、その成果として働く人や地域の魅力を伝えるポスターを作成。1日午後から旧市立図書館(同市上屋敷2丁目)でポスター展を開いた。

フィールドワークに訪れたのは、環境情報学部の加藤文俊教授の「場のチカラプロジェクト」のメンバー。2004年から全国各地で調査をしている。今回は、7月に旧市立図書館であった催し「アー

人が集う場所をテーマに調査研究をしている慶応義塾大学環境情報学部の学生と大学院生計17人が8月30日から2泊3日の日程で田辺市を訪れ、フィールドワークを行った。学生らは市内で働く9人を手分けして取材し、その成果として働く人や地域の魅力を伝えるポスターを作成。1日午後から旧市立図書館(同市上屋敷2丁目)でポスター展を開いた。

学生らは8月31日、農業や工業、水産加工、商業、木炭生産業などの職に就いている9人を手分けして取材。仕事ぶりを撮影するとともに職人や地域の魅力を聞き出し、その日の夜にポスター17枚を作成した。

取材した3年生の龍山千里さん(20)は「初めて田辺を訪れた。外部の人に温かく優しく接する人が多いと感じた」と話した。

9月中旬には作成したポスターの展示を同市隣の市立図書館でも行う予定。